

山梨県松姫峠で FITにより採集された空中浮遊性微小甲虫類

野村周平¹・平野幸彦²・藤倉健一³

¹ 国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.go.jp)

² 〒 250-0865 神奈川県小田原市蓮正寺 585-29

³ 〒 234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台 4-36-4-205

**Air Floating Minute Beetles Collected by FIT from Matsuhime-tôge Pass,
Yamanashi Prefecture, Central Honshu, Japan**

Shûhei NOMURA, Yukihiko HIRANO and Ken-ichi FUJIKURA

春から夏にかけての高温期、野外ではたくさんの甲虫が空气中を浮遊しており、その大半は5mm以下のきわめて微小な種である。これら空中浮遊性の甲虫はFIT（フライト・インターセプト・トラップ＝衝突板トラップ）やトラック・トラップ（＝カーネット）で採集することができる。しかしどの地域でどの時期にどのような種が発生するのか、得られるのかについては詳しく研究されていない。

筆者の一人、野村は関東山地における空中浮遊性甲虫の動向を探るため、2004年7月、山梨県内2箇所においてFIT調査を行なった。この結果得られた一部の種（アリヅカムシ）についてはすでに報告した（野村2008）が、今回、平野、藤倉によって、エンマムシ科、ムクゲキノコムシ科、タマキノコムシ科およびケシキスイ科の種について同定できたので、その結果を報告する。

以下のリストにおいて、採集データはすべて同一で以下のとおりである：山梨県大月市松姫峠（標高約1,250m）、地上FIT（NG-3）、2004年7月1-8日、野村周平採集。地上FITの規格および設置法は、野村（2008）に示したものと同一である。

Histeridae エンマムシ科（平野同定）

1. *Platylomalus fujisanus* (Lewis, 1892)
フジチビヒラタエンマムシ 1 ex.

Ptiliidae ムクゲキノコムシ科（藤倉同定）

1. *Ptenidium (Wankowizium) magnum* Ericson, 1909
オオツヤムクゲキノコムシ 1 ex.
2. ニホンフチドリムクゲキノコムシ（註1）
1 ex.

3. *Pteryx splendens* A. Strand, 1960 2 exs.
4. *Ptinella lewisiana* Matthews, 1884
ルイスウスイロムクゲキノコムシ 2 exs.
5. *Cissidium nomurai* Y. Sawada, 2008
ノムラヒサゴムクゲキノコムシ 1 ex.
6. *Acrotrichis (Flachiana) similaris* Sundt, 1969
ニセクボタムクゲキノコムシ 1 ex.

Leiodidae タマキノコムシ科（平野同定）

1. *Leiodes* sp. 1 1 ex.
2. *Leiodes* sp. 2 16 exs.
3. *Anisotoma curta* (Portevin, 1927)
ハバビロタマキノコムシ 1 ex.
4. *A. frontalis* (Portevin, 1927)
コゲチャクシヒゲタマキノコムシ 1 ex.
5. *A. annae* Švec, 1992
ズモンクシヒゲタマキノコムシ 2 exs.
6. *A. biplagiata* (Portevin, 1927)
ベニモンヒゲブタマキノコムシ 2 exs.
7. *Colon* sp. 1 ex.

Nitidulidae ケシキスイ科（平野同定）

1. *Neopallodes inermis* Reitter, 1884
ネアカマルケシキスイ 1 ex.

註1：本種については、澤田義弘氏の博士論文から、*Nossidium japonicus* Sawadaとして野村が同定し、野村ほか（2005）および野村ほか（2006）ではこの名称で報告した（Nomura et al. 2000ではまだ学名和名とも未確定として発表）。しかし今回再度澤田氏に確認したところ、本種についてはまだ正式

に属の所属および新種名は公表されていない，すなわち本種の学名はまだ確定していないことが判明したので，この場を借りて明らかにしておきたい。

謝辞

ムクゲキノコムシの学名について貴重なご教示をいただいた大阪府宮箕面公園昆虫館の澤田義弘博士に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Nomura, S., T. Kishimoto and Y. Watanabe, 2000. A faunistic study on the Staphylinoid beetles from the garden of the Imperial Palace, Tokyo, Japan (Insecta, Coleoptera). *Memoirs of the National Science Museum, Tokyo*, (36), 257-286.
- 野村周平, 2008. 山梨県で FIT により採集したアリヅカムシ. 甲虫ニュース, (164), 7-9.
- 野村周平・丸山宗利・新井志保, 2005. 赤坂御用地ならびに常盤松御用邸の土壌性ハネカクシ相. 国立科学博物館専報, (39), 161-171.
- 野村周平・丸山宗利・新井志保, 2006. 皇居における土壌性ハネカクシ類の多様性モニタリング. 国立科学博物館専報, (43), 161-186.

【短報】マルガタオオヨツボシゴミムシの石垣島における越冬について

沖縄県石垣島においてマルガタオオヨツボシゴミムシ *Graspedophorus mandarinus* (Schaum, 1853) の越冬を観察したので報告したい。本種は東南アジア，中国，台湾，ホンコンなどに広く分布し，国内では西表島と竹富島（新堀 2000）に分布している。近年になって宮古島（阿部・盛口 2007）からも記録されたが，石垣島からの記録はみられない。また亜熱帯に分布する種が北限と思われる地域で温帯以北のオサムシ類でみられるようにように朽木の中で越冬していたので報告する。

石垣市八島埋め立て地において 2011 年 1 月 26 日，公園の緑地化のために植えられていたデイゴ *Erythrina variegata* L. var. *orientalis* Merr.（マメ科）が軒並み枯れてしまい，早く枯れてしまった材は処分されて株だけ残っていたが，遅れて枯れた株は切られただけで草地に放置されていた。直径 40cm 程の倒木の朽木を割ると本種が 10cm 平方の範囲に 12 個体がまとまって潜っていた。この切り株は横に倒れたままで樹皮がなくなりかなり腐食が進んだもので，潜っていた場所は地上から離れた約 50cm の高さの場所であった。掘り出した個体はすぐに動き出したが，動きは緩慢であった。

因みに，阿部・盛口（2007）は 12 月 22 日に石の下で採集している。サンゴや石の下には通常の活動期にも隠れ場所としてみられるものである。産地は異なるが，この記録は越冬でないように思われる。

末筆ながら，分布と生態について森正人氏に情報をいただいたことを記して厚くお礼申し上げます。



図1. 掘り出した時の様子。やや緩慢であるがすぐに朽木に潜って逃げようとする。



図2. マルガタオオヨツボシゴミムシが越冬していた朽木。

引用文献

- 阿部洋志・盛口 満, 2007. 宮古島におけるマルガタオオヨツボシゴミムシの分布記録. 月刊むし, (439), 38.
- 新堀豊彦, 2000. マルガタオオヨツボシゴミムシを竹富島で採集. 甲虫ニュース, (127・128), 10.

（和歌山県湯浅町 楠井善久）